(C)河北新報社

復興と創造

みやぎ発イノベーション 1

東日本大震災から３年半が経過した。被災地の再生はまだ道半ばだが、宮城県の掲げる「創造的復興」に向け、多様なビジネスの芽が育ちつつある。新しいチャレンジを伴いながらの起業や事業展開は、宮城の産業に新たな息吹を呼び込み復興を支えている。「みやぎ発イノベーション」。そんな可能性を感じさせる創造的な取り組みを、宮城県の若手職員が訪ねて現状や成長性などを紹介する。１回目は地域産業と雇用の創出をテーマにした。

気仙沼ニッティング（気仙沼市神山）

港町で紡ぐ高級手編み

1着15万円という高価格でありながら、販売数に対し何十倍もの注文が殺到するカーディガン。震災後、被災地の気仙沼市で創業した気仙沼ニッティングが手掛ける編み物は、全国から人気を呼んでいる。

「面白いと思ってもらえる会社にしたい」と話す御手洗社長

「人件費の高い日本で、当社のようなモデルが成立することは世界に対しても勇気を与える」。縁もゆかりもない地に移り住み、同社の社長を引き受けた御手洗瑞子さん(29)は、県北の港町で起業の手応えを感じていた。

少ない資本で場所を選ばず、すぐに始められるその会社は、御手洗社長の思いとも重なるものだった。「稼げる会社を気仙沼に」という2人の復興プロジェクトは2012年に始動した。

気仙沼に編み物の文化があることを知ったのは、地元の人にアイデアを打ち明けたときだ。漁師のセーターをよく編んでいた気仙沼の人々にとって編み物は親しみ深かった。土地との親和性も加わり、気仙沼ニッティングは地域に根を下ろし、雇用を生み出す企業になった。

現在編み手に登録しているのは地元の女性を中心に30人以上。主に以前から編み物をしていた人々だ。編み手たちは、小さな間違いでも迷いなくほどき、編み直す。御手洗社長は「誇りを持って作るニットなので、真摯（しんし）に仕事と向き合っていこう」と編み手に繰り返し話す。質に対する妥協は一切しない。

〝被災地で作る編み物〟として甘えるつもりもない。

東大経済学部を卒業後勤めた米大手経営コンサルティング会社で、企業の成功例も失敗例も数多く知る御手洗社長は「地域性だけでなく、それにコストやニーズも考えた事業でなければ続かない。お客さんに求められるものでなければ立ちゆかなくなる」と気を緩めない。

震災前から顕在化していた「地方」の産業と雇用の先細り。しかし、インターネットの普及と物流の進化により、地方で商売することのデメリットは減ってきている。「気仙沼の持つエキゾチックさが想像力をかき立てる。作る人、さらには作られた物が持つストーリーは、コンテンツに深みを持たせる」。逆に地方で事業を行うメリットは確実に存在すると御手洗社長は確信する。

米ハーバード大のビジネススクールの事例教材として取材されるなど、気仙沼ニッティングは海外からも注目を集めるモデルとなった。「買い手も作り手も次の仕事を心待ちにする会社であり続けたい」と御手洗社長は、目を輝かせる。

（宮城県情報システム課主事・吉田友也）

週に1度の「編み会」で楽しげに作業する気仙沼ニッティングの編み手たち＝気仙沼市神山

メモ　2012年6月に事業開始、13年6月に株式会社とした。商品は編み物作家三國万里子さんがデザインしたカーディガン「MMO1」とセーター「エチュード」「リズムA」の3種類。商品を編むトレーニングを積み手と契約を結び、事業展開している。

吉田友也主事

塚口皓明主事

MAKOTO（仙台市宮城野区）

志を持つ起業家支える

地域産業と雇用創出

仙台市宮城野区のインテリジェントビルにある東北最大級のコワーキングスペース「cocolin（ココリン）」。経営者や起業を目指す人々が一つの空間に集まり、活発に意見交換を行っている。

「起業家が育つ土壌を東北の地に創りたかった」。こう語るのは、オフィスを運営する一般社団法人・MAKOTO（マコト）の竹井智宏代表理事(39)。意見交換からビジネスヒントをつかみ、実践に移す。まさにベンチャー志向を刺激する空間になっている。

同法人は現在、ココリンの管理運営のほかに、クラウドファウンディング系のイベント事業など。いずれも「宮城発」「東北発」といった発想で投資家の支援を取り付けた。

竹井代表理事による「起業家が育つ土壌を東北の地に創りたかった」。こう語るのは、オフィスを運営する一般社団法人・MAKOTO（マコト）の竹井智宏代表理事(39)。意見交換からビジネスヒントをつかみ、実践に移す。まさにベンチャー志向を刺激する空間になっている。

同法人は現在、ココリンの管理運営のほかに、クラウドファウンディングのウェブサイト「チャレンジスター」事業も展開。これまで延べ約20の事業の立ち上げに携わり、1700万円以上の資金調達の実績を挙げている。このサイトで支援を受けた業種は多種多様で、アグリビジネスから福祉関連、アウトドア系のイベント事業など。

「志を持った起業家を全力で支援する」と語る竹井代表理事

震災以降、東北にはこうした志を持った起業家が確実に増えており、東北に不十分だった起業家の支援体制を自身の手で整えたかったという。

仙台の大学を卒業後、ベンチャーキャピタルで勤務していた竹井代表理事。震災後、投資して上場した企業からリターンを受け取るベンチャーキャピタルだけでは、東北の起業支援は難しい、との考えに至った。

「東北の復興のため、今は事業規模は小さくても『志』を持って挑戦する東北の起業家の支援がしたい」。そんな思いが、マコトの設立へと突き動かした。

起業活動に対して、竹井代表理事は「トライアンドエラーの繰り返し。とても泥臭い部分が多い」と指摘する。支援する起業家に対して、エラーが生じれば、時には大幅なビジネスモデルの転換を求める。

一方で、他地域に比べ、起業支援体制の不備も痛感。一口に起業家といっても、経験値や能力は、おのおので大きく異なる。補助金をはじめとした資金や場所の提供だけで終わっては、十分な支援とは言えないという。

被災地の失業者は15万人とも言われる。元の東北に戻すのではなく、より強い企業、より強い雇用を創出していかなければならない。マコトでは、場の提供だけではなく、それぞれの起業家に経営に必要な知識や技術を習得する研修会にも力を入れる。

竹井代表理事は「キーワードは『グローバル』と『イノベーション』。震災を経験した東北で、地方の起業支援モデル創出し、全国に発信していきたい」と強調する。

（宮城県新産業振興課主事・塚口皓明）

メモ　2011年8月創業。「世界を変える志の起業家を全力支援」を理念に事業を展開している。14年8月には七十七銀行（仙台市）と起業家支援で業務連携する協定を結び、ベンチャー企業の育成に取り組む。

PRに役立つ写真の撮り方を学んだMAKOTOの研修会＝仙台市宮城野区榴岡のココリン

ルポ編

知事からひとこと

地域に根ざした起業に期待

東日本大震災により大きな被害を受けたわが県は、元に戻すだけではなく、新しい事業を生み出すといった「創造的な復興」を成し遂げなければなりません。復興需要はいずれなくなります。また、人口減少社会の中で、取材にお伺いしたのは、地域に根ざした事業の立ち上げを支援したり、また自ら事業を立ち上げたり、成果を上げているお二人です。起業は「地方創生」にも不可欠です。このような積極的な取り組みがさらに県内に広がり、大きく育つことを期待するとともに、県としてもできる限りご支援したいと考えています。

シリーズ「復興と創造―みやぎ発イノベーション」は本年度内に6回の掲載を予定し、3月まで原則として第1日曜日の河北新報に掲載します。次回は「地域産業と雇用創出」の対談編を取り上げます。企画は河北新報社企画事業部、協力は宮城県。

これまでも、これからも。
地域と共に。
地域と共に歩み続けるために、
私たちは、企業と企業を結ぶさまざまな商談会の開催や
海外進出に取り組む企業のサポートなど、
地元企業を応援する活動を行っています。
しちじゅうしち 検索 http://www.77bank.co.jp/
77 BANK

地方銀行フードセレクション

日中ものづくり商談会

食品ビジネス商談会in香港

復興応援商談会in石巻